

2013年6月21日

報道関係各位

子ども・子育てに関する調査

《結婚に対する意識について》

未婚男女“結婚したい”8割、“結婚したくない”2割
結婚したくない理由 半数が「結婚することが幸せだと思わない」
結婚できないと思う理由 「出会いがない」7割強、20代では「異性と上手くつきあえない」6割

《子どもを持つことに対する意識について》

2人目が欲しい73.9%、理想の子どもの人数 「2人」43.9%が最多
子どもが欲しくない理由 「ちゃんと育てる自信がない」、「金銭的な余裕がない」

《子育て実態について》

1週間の平均子育て時間 父親16.8時間、母親53.0時間
家庭での子育てを分担している比率 母親71.7%、父親18.2%
子育ての参考や情報源に利用 20代女性では“子育て関連サイト”2人に1人、“ソーシャルメディア”4人に1人

《子どもができた・子育てをしたことでの良い面と悪い面について》

子育ての良い面 トップは「子どもの成長が楽しい」7割強、末子0歳層では9割
子育ての悪い面 トップは「経済的に苦しくなった」5割半、末子3～5歳層では「ストレスが増えた」4割半

《子育てにおけるストレスや不安・悩み》

子育てで『ストレスを感じることもある』7割半、女性では8割半
子ども・子育てに対する不安・悩み トップは「子育てにかかる金銭的負担」6割弱

《子育てに対する意識について/子どもに体験して欲しいこと》

“子育ては社会全体でするものだと思う”約4人に1人
“日本は子育て支援の環境が整っていないと思う”6割弱、“環境が整っていると思う”1割強
子どもにこれから体験して欲しい 「職業体験」7割

《子育てで配偶者に望むこと/子育て支援について》

子育てで配偶者に望むこと 妻の半数近くが「子育てについて一緒に考えて欲しい」、夫の半数近くは「特になし」
子育て支援を《行政》に求める7割弱、《職場》には4割強
必要な子育て支援 「子育て費用」7割強、女性では「子育てと仕事の両立」半数以上、「保育サービス」4割半

《子育てと職場について》

職場が子育てをしながら働ける環境 『そう思わない』男性では3人に1人以上
子育てをしながら働ける環境ではない理由 「子育てが理由でも休暇・休業がとりづらい」7割弱

連合(日本労働組合総連合会)(<http://www.jtuc-rengo.or.jp>)(所在地:東京都千代田区、会長:古賀 伸明)では、子ども・子育てに関する調査を、モバイルリサーチ(携帯電話によるインターネットリサーチ)により、2013年4月26日～5月2日の7日間において実施し、3,000名(調査対象者:20歳～49歳の男女)の有効サンプルを集計しました。本調査では、結婚に対する意識や子どもを持つことへの意識、子育てについて聞きました。(調査協力機関:ネットエイジア株式会社)

調査結果

《結婚に対する意識について》

◆未婚男女“結婚したい”8割、“結婚したくない”2割

未婚30代女性では「すぐにも結婚したい」3割弱、40代女性は1割

◆「すぐにも結婚したい」は正規労働者では23.0%、非正規労働者では半分の11.5%

◆結婚したい人の意識 3割強は『結婚できる』、2割強は『結婚できない』

◆結婚したくない理由 半数が「結婚することが幸せだと思わない」

◆結婚できないと思う理由 「出会いがない」7割強、20代では「異性と上手くつきあえない」6割

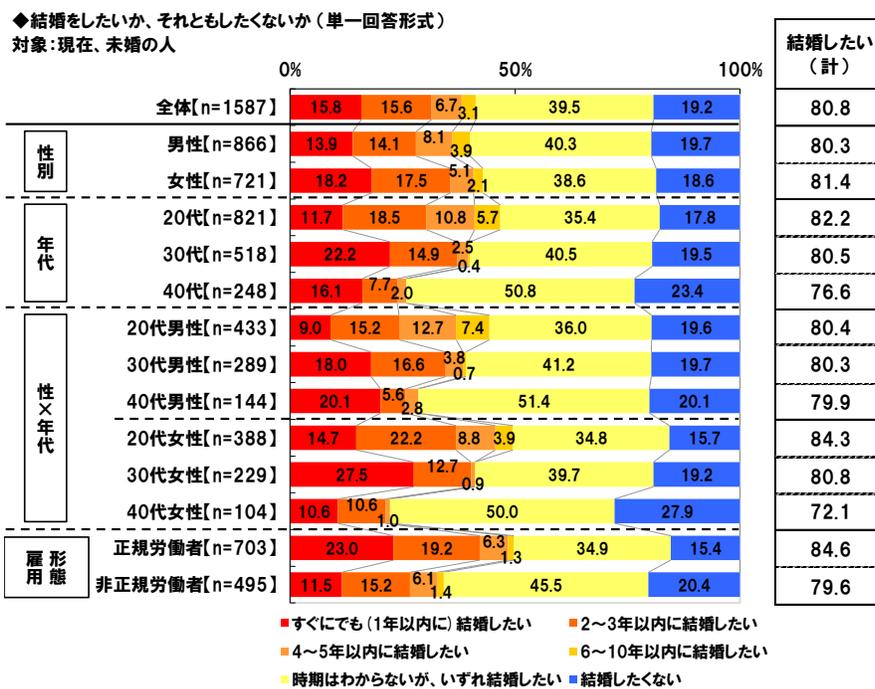
最初に、未婚の回答者(1,587名)に、結婚に対してどのように思っているか聞きました。

まず、結婚したいか聞いたところ、「すぐにも(1年以内に)結婚したい」15.8%、「2～3年以内に結婚したい」15.6%、「4～5年以内に結婚したい」6.7%、「6～10年以内に結婚したい」3.1%、「時期はわからないが、いずれ結婚したい」39.5%となり、これらを合計した『結婚したい』は80.8%、「結婚したくない」は19.2%でした。「結婚したくない」とした結婚意欲のない人の割合が2割というのは、少なくないと言えるのではないのでしょうか。

「結婚したくない」を性年代別にみると、男性では各年代とも同レベル(20%前後)でしたが、女性では20代(15.7%)、30代(19.2%)、40代(27.9%)と年代が上がるにつれ結婚意欲のない人の割合が高くなりました。

また、「すぐにも(1年以内に)結婚したい」についても性年代別にみると、男性では年代が上がるほど高くなりました(20代9.0%、30代18.0%、40代20.1%)が、女性では30代27.5%がピークとなり、40代10.6%で大きく下がりました。

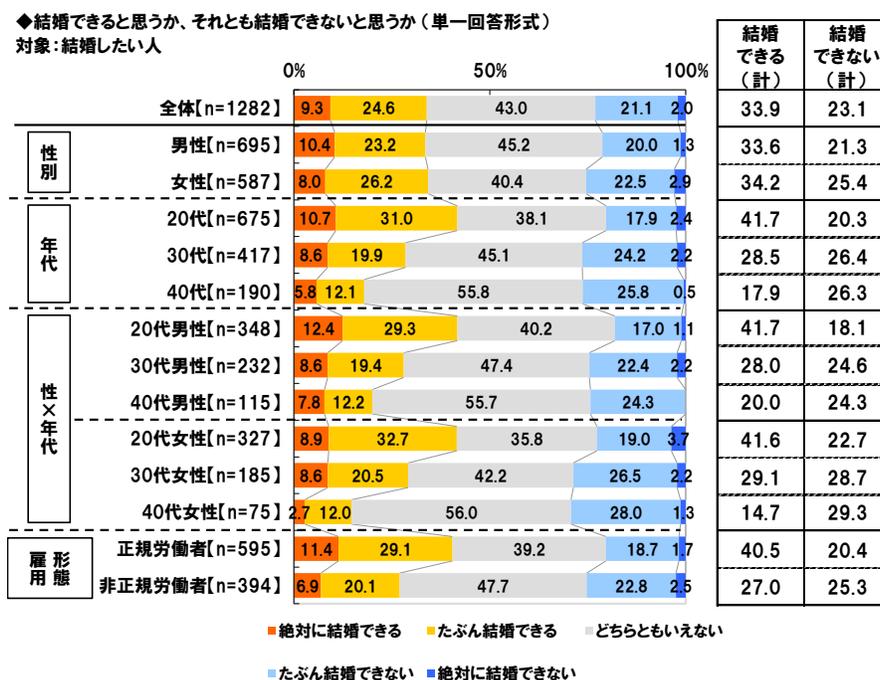
さらに、雇用形態別に結婚意欲を比較すると、「すぐにも(1年以内に)結婚したい」としたのは、正規労働者では23.0%、非正規労働者では11.5%と非正規労働者では正規労働者の半分の割合でした。



次に、結婚をしたいとした回答者(1,282名)に、結婚できると思うか聞いたところ、「絶対に結婚できる」9.3%、「たぶん結婚できる」24.6%、「どちらともいえない」43.0%、「たぶん結婚できない」21.1%、「絶対に結婚できない」2.0%となり、『結婚できる』(「絶対に結婚できる」と「たぶん結婚できる」の合計)は33.9%、『結婚できない』(「たぶん結婚できない」と「絶対に結婚できない」の合計)は23.1%となりました。

『結婚できる』とした割合を性年代別にみると、男女とも年代が上がるにつれ低くなり、男性では20代41.7%、30代28.0%、40代20.0%、女性では20代41.6%、30代29.1%、40代14.7%でした。

また、雇用形態別に比較すると、『結婚できる』とした割合は、正規労働者では40.5%、非正規労働者では27.0%と13.5ポイントの差がみられました。



結婚意欲のない人や意欲があってもできないと思っている人の割合が少なくないことがわかりましたが、なぜ、結婚意欲が湧かなかつたり、意欲があっても結婚できないと思ったりしているのでしょうか。

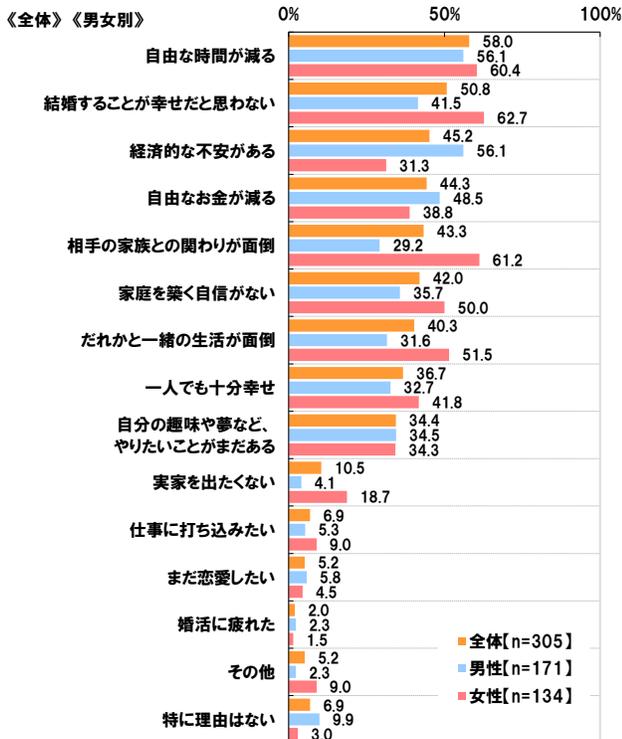
結婚意欲のない回答者(305名)に、結婚したくない理由を聞いたところ、最も多かったのは「自由な時間が減る」58.0%、次いで「結婚することが幸せだと思わない」50.8%、「経済的な不安がある」45.2%、「自由なお金が減る」44.3%、「相手の家族との関わりが面倒」43.3%、「家庭を築く自信がない」42.0%、「だれかと一緒に生活が面倒」40.3%が続きました。結婚に幸せを感じないことや面倒に感じる、自分の自由が減ること、経済的や家庭を築くことへの不安が結婚したくない理由として多く挙げられました。

上位になった項目を男女別にみると、「経済的な不安がある」(男性56.1%・女性31.3%)は男性の方が10ポイント以上高くなりました。他方、「結婚することが幸せだと思わない」(男性41.5%・女性62.7%)、「相手の家族との関わりが面倒」(男性29.2%・女性61.2%)、「だれかと一緒に生活が面倒」(男性31.6%・女性51.5%)、「家庭を築く自信がない」(男性35.7%・女性50.0%)では女性の方が10ポイント以上高くなりました。また、「実家を出たくない」(男性4.1%・女性18.7%)や「一人でも十分幸せ」(男性32.7%・女性41.8%)でも女性の方が高くなりました。これらの結果から未婚

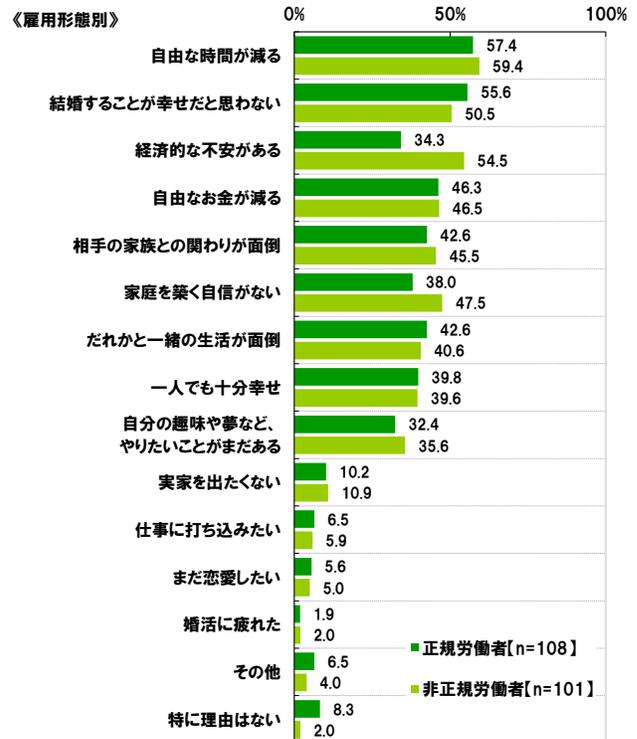
女性が未婚男性に比べ結婚に対してポジティブなイメージを持っておらず、現在の生活を維持したいと感じている様子が窺えました。

さらに、雇用形態別に比較すると、「経済的な不安がある」を理由に挙げたのは非正規労働者の方が高くなり、正規労働者の 34.3%に対し、非正規労働者では 54.5%でした。

◆結婚したくない理由（複数回答形式）
 対象：結婚したくない人



◆結婚したくない理由（複数回答形式）
 対象：結婚したくない人



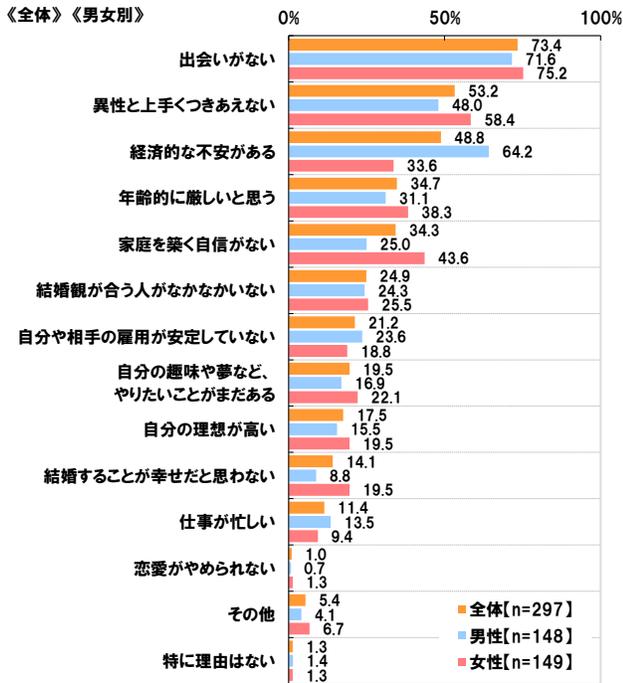
次に、結婚意欲があるものの結婚できないとした回答者(297名)に、結婚できないと思う理由を聞いたところ、「出会いがない」73.4%が際立って高くなり、「異性と上手くつきあえない」53.2%、「経済的な不安がある」48.8%、「年齢的に厳しいと思う」34.7%、「家庭を築く自信がない」34.3%が続きました。恋愛結婚が大多数を占めている昨今ですが、上位2項目をみると、結婚前の恋愛ができないこと、上手くいかないことが、結婚できないと思う大きな要因になっている様子が窺えました。

男女別にみていくと、「異性と上手くつきあえない」は男性 48.0%に比べ女性 58.4%の方が高く、「家庭を築く自信がない」でも男性 25.0%、女性 43.6%と女性の方が高くなりました。他方、「経済的な不安がある」では男性 64.2%、女性 33.6%と男性の方が高くなりました。

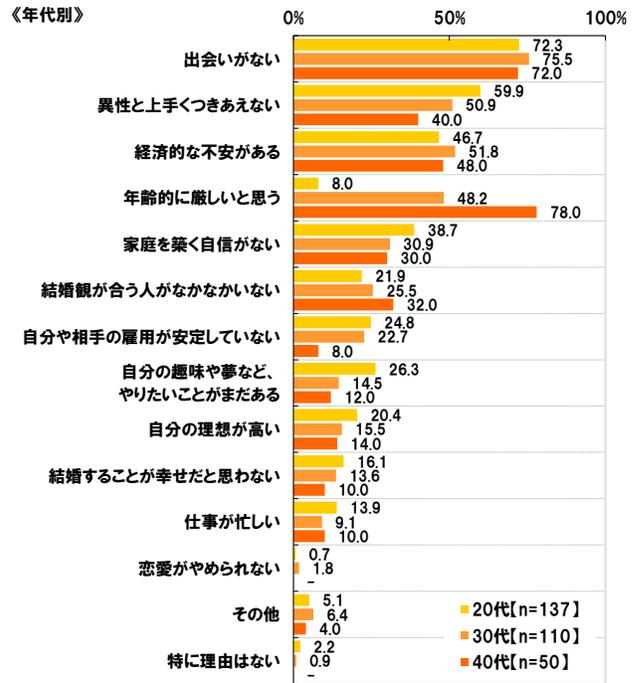
また、年代別にみていくと、「異性と上手くつきあえない」は 20代 59.9%、30代 50.9%、40代 40.0%と若い世代ほど高く、それとは逆に「年齢的に厳しいと思う」は 20代 8.0%、30代 48.2%、40代 78.0%と世代が上がるにつれ高く、40代では結婚できない理由のトップとなりました。

さらに、雇用形態別にみると、「経済的な不安がある」は正規労働者 34.7%に対し、非正規労働者では 59.0%となり、「自分や相手の雇用が安定していない」は正規労働者 7.4%に対し、非正規労働者では 33.0%とどちらも非正規労働者の方が高く、経済的な不安や雇用の不安定が結婚できないと思う理由になっているのは非正規労働者の方が多い様子が窺えました。

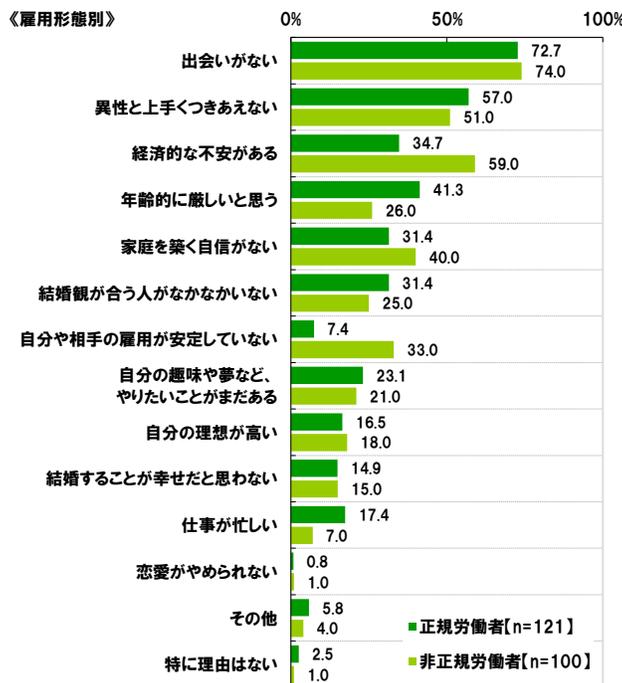
◆結婚できないと思う理由（複数回答形式）
 対象：結婚したいものの結婚できないと思う人



◆結婚できないと思う理由（複数回答形式）
 対象：結婚したいものの結婚できないと思う人



◆結婚できないと思う理由（複数回答形式）
 対象：結婚したいものの結婚できないと思う人



《子どもを持つことに対する意識について》

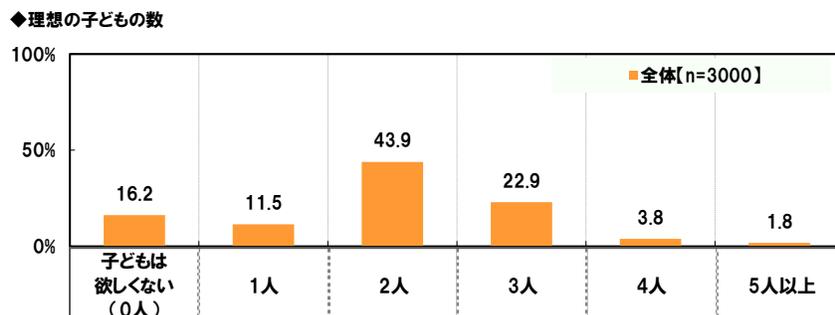
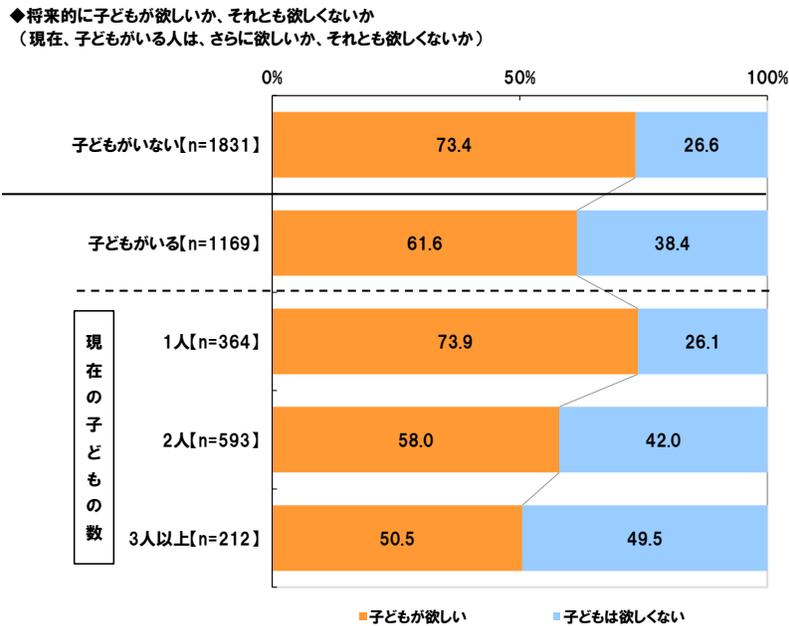
- ◆2人目が欲しいは73.9%、理想の子どもの人数「2人」43.9%が最多
- ◆子どもを持った理由/欲しい理由「親に孫の顔を見せてあげたい」女性の約半数
- ◆子どもが欲しくない理由「ちゃんと育てる自信がない」、「金銭的な余裕がない」

全回答者(3,000名)に、将来的に子どもが欲しいか(既に子どもがいる人にはさらに欲しいか)聞いたところ、現在子どもがいない回答者(1,831名)では、「子どもが欲しい」は73.4%、「子どもは欲しくない」は26.6%となり、現在子どもがいない人の4人に1人が子どもを欲しくないと思っている結果となりました。

既に子どもがいる回答者についても「子どもが欲しい」割合(さらに欲しい割合)をみると、子どもが1人いる回答者(364名)では73.9%、子どもが2人いる回答者(593名)では58.0%、子どもが3人以上いる回答者(212名)では50.5%となり、2人目が欲しい人は7割強で、子どもの数が2人を境目に欲しい割合は5割台に下がりました。

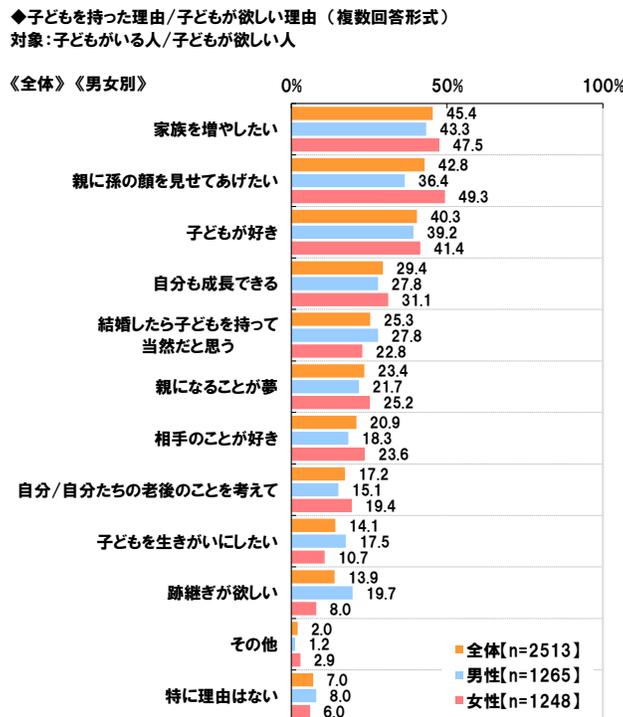
それでは、理想の子どもの数は何人だと思われるのでしょうか。

理想の子どもの数を算出すると、「子どもは欲しくない(0人)」16.2%、「1人」11.5%、「2人」43.9%、「3人」22.9%、「4人」3.8%、「5人以上」1.8%となり、理想の子どもの数を「2人」とした人が最も多くなりました。



次に、子どもがいる/子どもを欲しいとした回答者(2,513名)に、子どもを持った理由/子どもが欲しい理由を聞いたところ、最も多かったのは「家族を増やしたい」45.4%、次いで「親に孫の顔を見せてあげたい」42.8%、「子どもが好き」40.3%が続きました。

男女別にみると、「親に孫の顔を見せてあげたい」は男性では36.4%でしたが、女性では49.3%と約半数となり、女性が挙げた理由のトップでした。他方、「跡継ぎが欲しい」は男性の方が高く、男性19.7%、女性8.0%となりました。

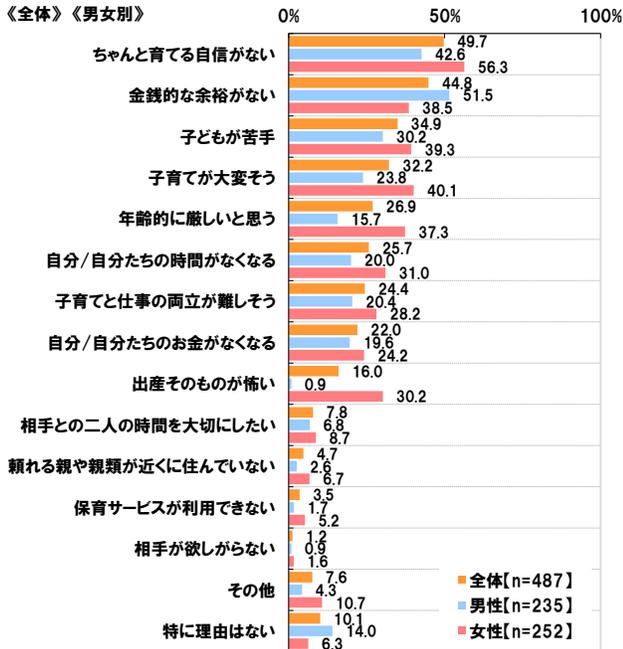


また、子どもがおらず欲しくないとした回答者(487名)に、子どもを欲しくない理由を聞いたところ、最も多かったのは「ちゃんと育てる自信がない」49.7%で半数近くが挙げ、以下「金銭的な余裕がない」44.8%、「子どもが苦手」34.9%、「子育てが大変そう」32.2%が続きました。

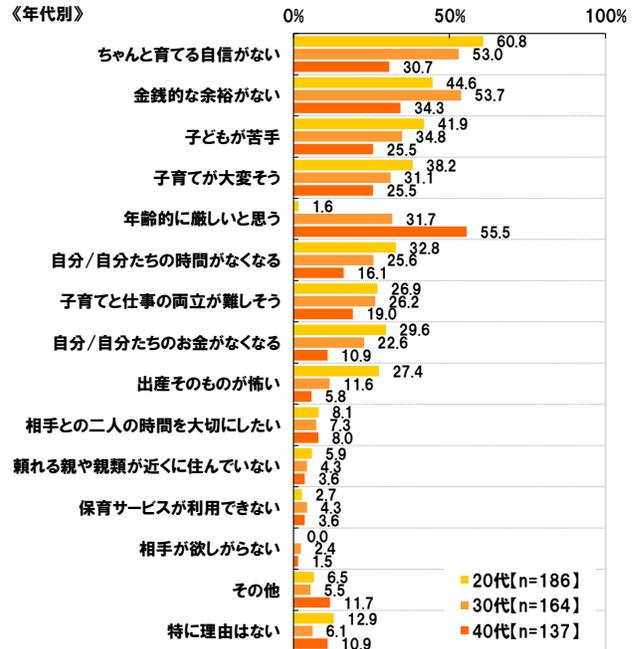
「金銭的な余裕がない」(男性51.5%・女性38.5%)は女性よりも男性の方が高く、「ちゃんと育てる自信がない」(男性42.6%・女性56.3%)や「子育てが大変そう」(男性23.8%・女性40.1%)、「子どもが苦手」(男性30.2%・女性39.3%)は女性の方が高くなりました。また、女性では「出産そのものが怖い」は30.2%でした。男性では金銭的な余裕を持っていないこと、女性では子育てへの自信が持てないことや出産に対する恐怖が理由になっている様子が窺えました。

さらに、年代別にみると、子育てへの自信が持てないのは若い世代の方が高くなり、「ちゃんと育てる自信がない」は20代60.8%、30代53.0%、40代30.7%、「子育てが大変そう」は20代38.2%、30代31.1%、40代25.5%となりました。また、自分たちの時間やお金なくなることを理由に挙げたのも若い世代の方が高く、「自分/自分たちの時間がなくなる」は20代32.8%、30代25.6%、40代16.1%、「自分/自分たちのお金なくなる」は20代29.6%、30代22.6%、40代10.9%でした。それらとは逆の世代が上がるにつれ高くなる傾向がみられたのは「年齢的に厳しいと思う」で、20代1.6%、30代31.7%、40代55.5%でした。

◆子どもを欲しくない理由（複数回答形式）
 対象：子どもを欲しくない人



◆子どもを欲しくない理由（複数回答形式）
 対象：子どもを欲しくない人



《子育て実態について》

◆1週間の平均子育て時間 父親16.8時間、母親53.0時間

◆家庭での子育てを分担している比率 父親 18.2%、母親 71.7%

◆子育ての参考や情報源に利用するもの「自分の親」7割弱

20代女性では“子育て関連サイト”2人に1人、“ソーシャルメディア”4人に1人

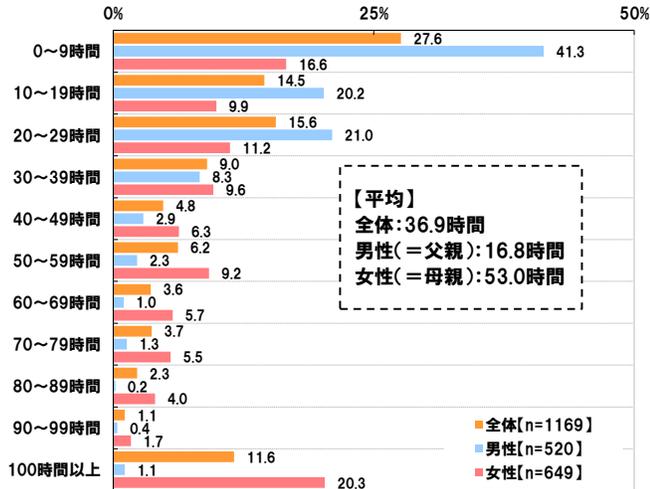
子どもがいる回答者(1,169名)に、子育てに1週間でどれくらいの時間を費やしているか聞いたところ、「0～9時間」が27.6%と全体の4分の1を占め、「10～19時間」が14.5%、「20～29時間」が15.6%となり、平均は36.9時間となりました。

平均時間を男女別にみると、男性(=父親)は16.8時間、女性(=母親)は53.0時間となりました。女性について詳しくみると、有職女性の平均時間は41.1時間と、男性の平均を大きく上回っています。女性が仕事を持っていても男性より子育てに多くの時間を割いている様子が窺えました。また、専業主婦の平均時間は73.0時間でした。

続いて、家庭の子育てについて、だれがどれくらいの比率で行っているか百分率で聞いたところ、それぞれの平均は、《男性(=父親)》18.2%、《女性(=母親)》71.7%、《祖父・祖母》7.6%となりました。

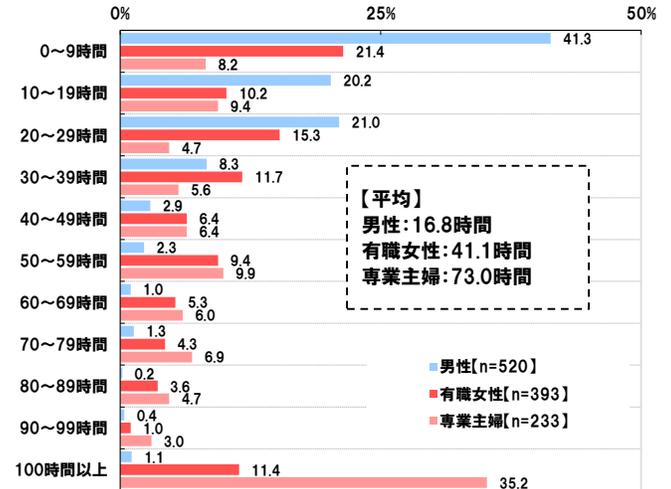
◆子育てに1週間で費やしている時間（数値入力形式）
 対象：子どもがいる人

《全体》《男女別》

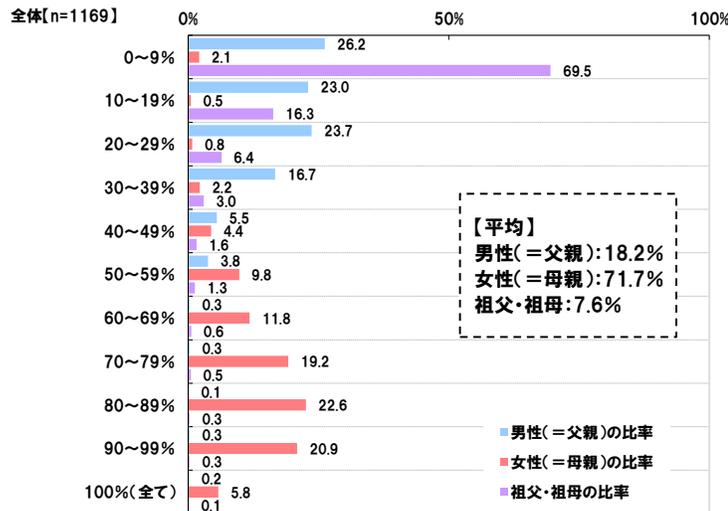


◆子育てに1週間で費やしている時間（数値入力形式）
 対象：子どもがいる人

《男性》《有職女性》《専業主婦》



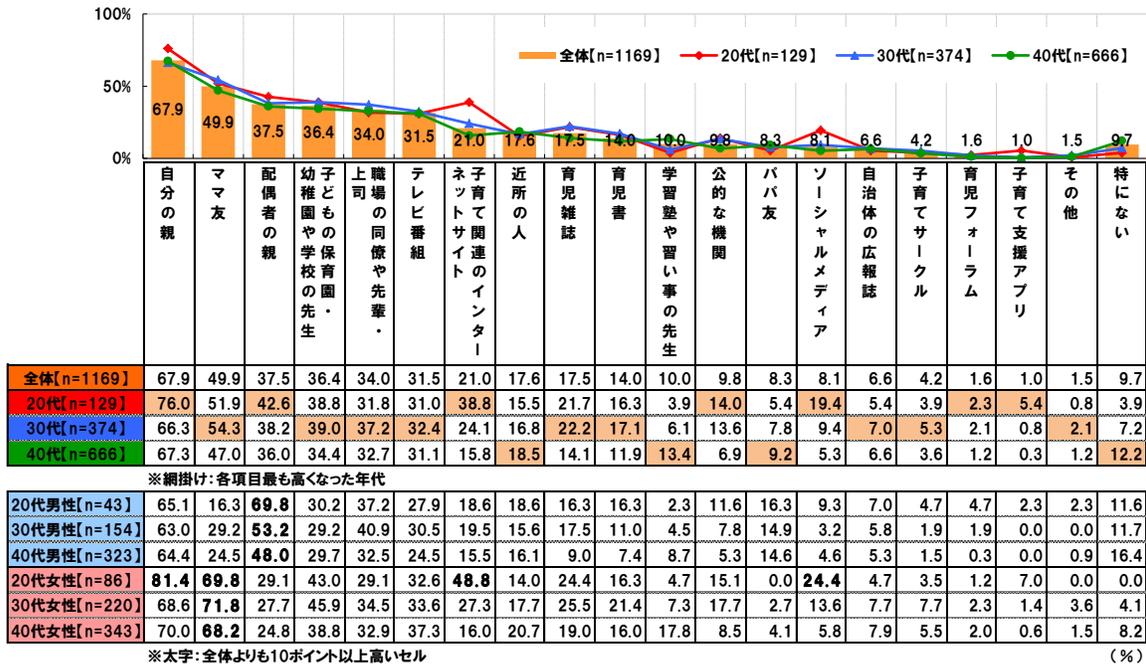
◆家庭での子育てについて、子育てを行っている比率（各数値入力形式）
 対象：子どもがいる人



次に、子育ての参考や情報源に利用するものを聞いたところ、「自分の親」67.9%が際立って高くなり、次いで「ママ友」49.9%、「配偶者の親」37.5%、「子どもの保育園・幼稚園や学校の先生」36.4%、「職場の同僚や先輩・上司」34.0%、「テレビ番組」31.5%が続きました。

年代別にみると、「子育て関連のインターネットサイト」(20代 38.8%、30代 24.1%、40代 15.8%)や「ソーシャルメディア(SNSやブログ、掲示板など)」(20代 19.4%、30代 9.4%、40代 5.3%)を挙げた割合は20代が他の年代層より高く、特に20代女性では、「子育て関連のインターネットサイト」は48.8%、「ソーシャルメディア」は24.4%になりました。また、「自分の親」(20代 76.0%、30代 66.3%、40代 67.3%)や「配偶者の親」(20代 42.6%、30代 38.2%、40代 36.0%)でも20代が他の年代層より高く、20代では他の年代層よりも親やインターネットを頼りにしている様子が窺えました。

◆子育ての参考や情報源に利用するもの（複数回答形式）
 対象：子どもがいる人



《子どもができた・子育てをしたことでの良い面と悪い面について》

◆子育ての良い面 トップは「子どもの成長が楽しい」7割強、末子0歳層では9割

◆子育ての悪い面 トップは「経済的に苦しくなった」5割半

末子3～5歳層では「ストレスが増えた」4割半

子どもがいる回答者(1,169名)に、子どもができたことや子育てをしたことでの自身や夫婦にとっての良い面と悪い面を聞いたところ、《良い面》では、「子どもの成長が楽しい」73.6%が最も高くなり、「子どもの笑顔に助けられている」64.5%、「家族としての絆が芽生えた」59.9%、「子どもと接する幸せを感じるようになった」55.1%、「自分の親に感謝することができるようになった」47.8%、「自分が成長できた」45.8%が続きました。

一方、《悪い面》では、「経済的に苦しくなった」55.2%が最も多くなり、「自分の自由な時間が持てなくなった」52.2%、「睡眠時間が少なくなった」42.5%、「ストレスが増えた」37.9%、「精神的な疲労が増えた」33.5%が続きました。

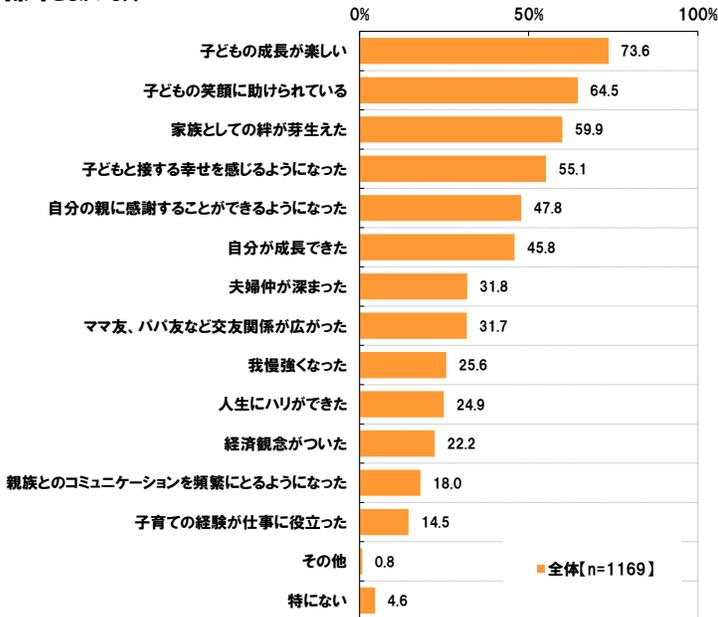
《良い面》の上位となった項目をみると末子年齢が若い層で特に高く、「子どもの成長が楽しい」や「子どもの笑顔に助けられている」、「子どもと接する幸せを感じるようになった」は、末子年齢層別にみると、末子0歳層と末子1～2歳層が他の末子年齢層より高くなる傾向がみられ、「子どもの成長が楽しい」は末子0歳層90.4%、末子1～2歳層84.5%、「子どもの笑顔に助けられている」は末子0歳層78.8%、末子1～2歳層75.5%、「子どもと接する幸せを感じるようになった」末子0歳層74.0%、末子1～2歳層60.6%となりました。

《悪い面》についても末子年齢層別にみると、「睡眠時間が少なくなった」(末子0歳層64.4%、末子1～2歳層54.2%)や「肉体的な疲労が増えた」(末子0歳層39.4%、末子1～2歳層40.0%)「自分の自由な時間が持てなくなった」(末子0歳層68.3%、末子1～2歳層61.3%、末子3～5歳層66.2%)では、末子年齢が若い層で高くなる傾向がみ

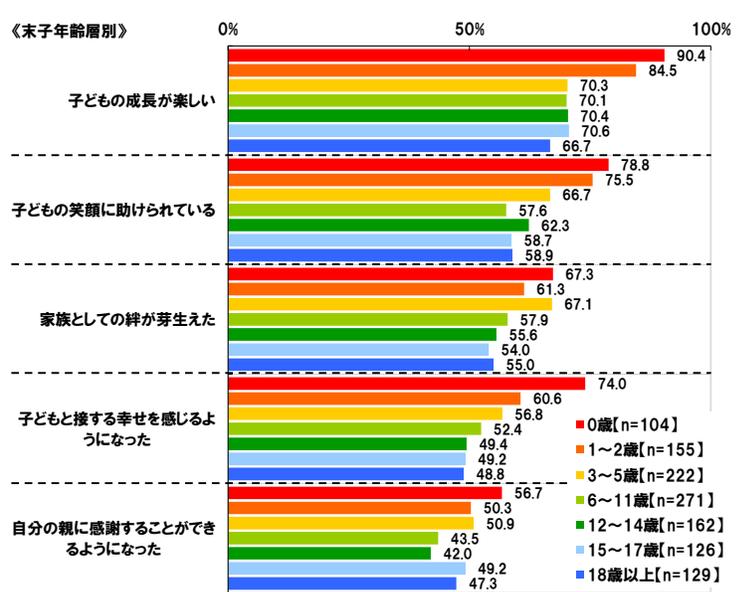
られ、子どもが幼いうちならではの苦労がある様子が窺えました。

また、《悪い面》の「ストレスが増えた」は末子 3～5 歳層 (46.4%)、「怒りやすくなった」は末子 3～5 歳層 (31.1%) と末子 6～11 歳層 (31.0%) が他の末子年齢層よりも高い傾向がみられ、「経済的に苦しくなった」は末子 12～14 歳層 (61.1%) や末子 15～17 歳層 (58.7%) が他の年齢層よりも高い傾向となりました。これらの結果から、子どもの成長に合わせて、親の苦労が変化している様子が窺えました。

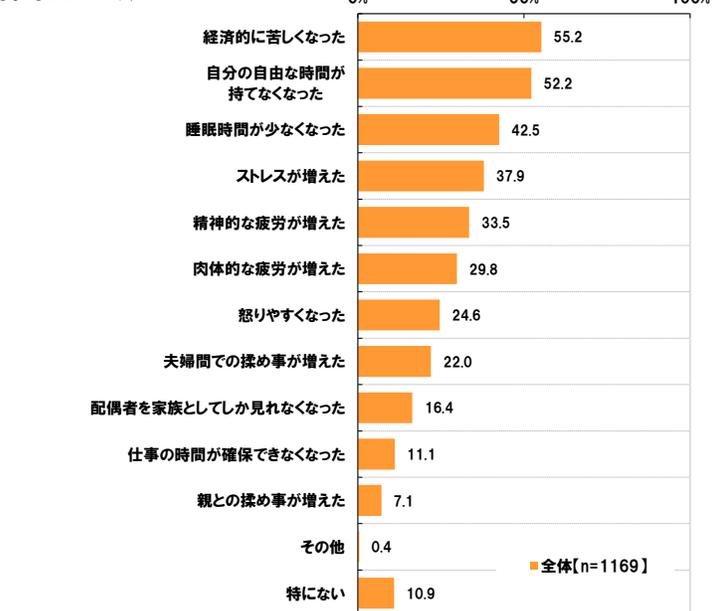
◆子どもができたことや子育てをしたことでの良い面 (複数回答形式)
 対象:子どもがいる人



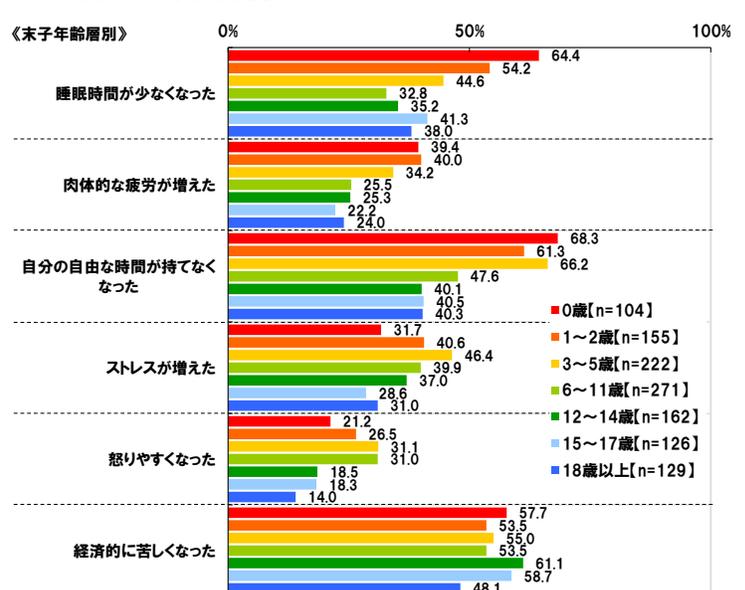
◆子どもができたことや子育てをしたことでの良い面 (複数回答形式)
 対象:子どもがいる人
 ※全体の上位5項目抜粋



◆子どもができたことや子育てをしたことでの悪い面 (複数回答形式)
 対象:子どもがいる人



◆子どもができたことや子育てをしたことでの悪い面 (複数回答形式)
 対象:子どもがいる人
 ※末子年齢層別で特徴があった項目を抜粋



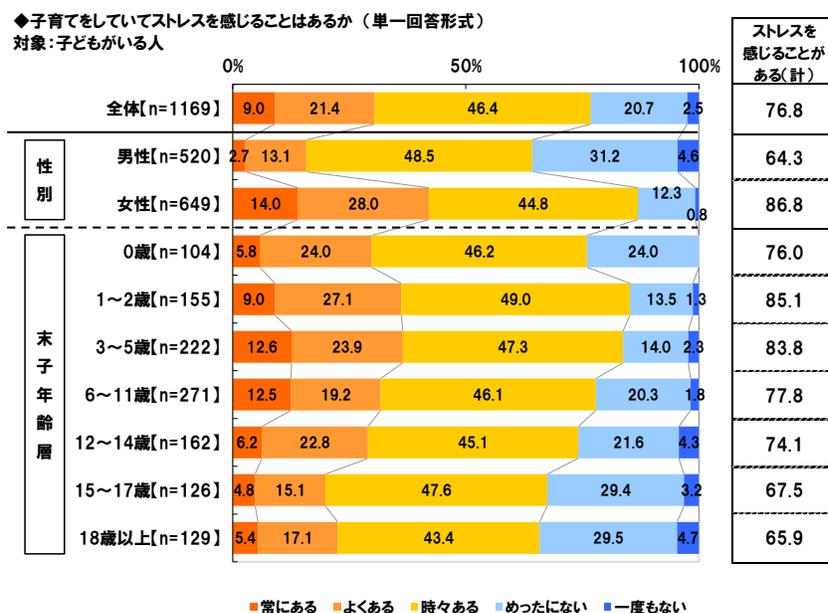
《子育てにおけるストレスや不安・悩み》

- ◆子育てで『ストレスを感じることもある』7割半、女性では8割半
- ◆子ども・子育てに対する不安・悩み トップは「子育てにかかる金銭的負担」6割弱
- ◆子どもはいないが将来的に欲しい層が抱える子育て不安は膨らみ過ぎの傾向？
- ◆子育ての不安や悩みの相談相手 トップ「配偶者」
 「職場の同僚や先輩・上司」は男性有職者の4人に1人、女性有職者の3人に1人
- ◆子育てのストレス解消 “寝る” “食べる” “おしゃべりする”
- ◆子育てのストレス解消 「TVやDVDをみる」3人に1人

子どもができたことや子育てをしたことでの悪い面では「ストレスが増えた」との回答がありましたが、どれくらいの方が子育て中にストレスを感じているのでしょうか。

子どもがいる回答者(1,169名)に、子育てをしていてストレスを感じることもあるか聞いたところ、「常にある」9.0%、「よくある」21.4%、「時々ある」46.4%となり、これらを合わせた『ストレスを感じることもある』は76.8%になりました。また、「めったにない」は20.7%、「一度もない」は2.5%でした。

『ストレスを感じることもある』を男女別にみると、子育てを行っている比率(平均)が男性より高かった女性の方が高くなり、男性64.3%に対し、女性では86.8%となりました。また、末子年齢層別にみると、末子1～2歳層(85.1%)、末子3～5歳層(83.8%)が他の末子年齢層よりも高く、末子年齢6歳を境目に末子年齢が上がるほど『ストレスを感じることもある』は下降する傾向がみられました。



次に、子ども・子育てに対する不安・悩みを聞いたところ、最も多かったのは「子育てにかかる金銭的負担」57.5%、次いで「子育ての方法やしつけ」53.2%、「子どもの成長・発達」46.2%、「子ども同士の交流」30.4%が続きました。

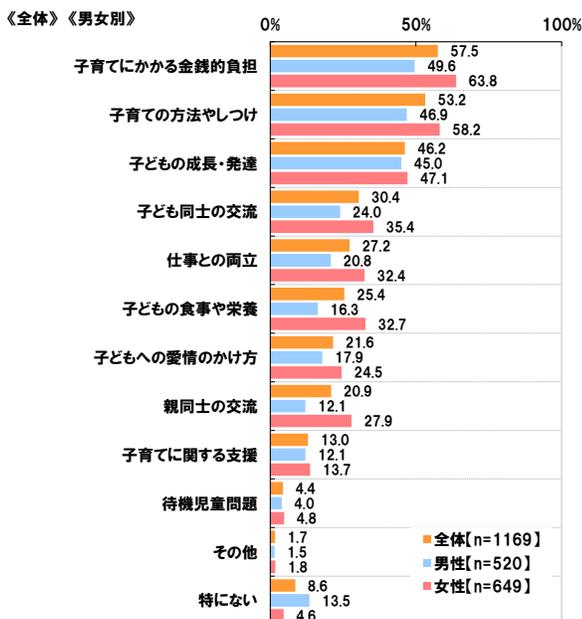
これらを男女別にみると、「子育てにかかる金銭的負担」(男性 49.6%・女性 63.8%)、「子育ての方法やしつけ」(男性 46.9%・女性 58.2%)、「子ども同士の交流」(男性 24.0%・女性 35.4%)と、「子どもの成長・発達」以外では女性で大幅に高くなりました。また、「仕事との両立」(男性 20.8%・女性 32.4%)、「子どもの食事や栄養」(男性 16.3%・女性

32.7%)、「親同士の交流」(男性 12.1%・女性 27.9%)でも女性が大幅に高くなりました。

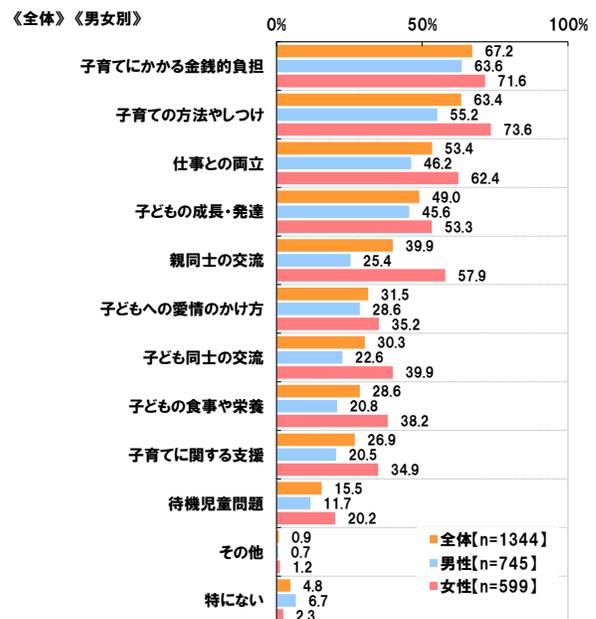
また、同じ質問を現在子どもはいるが将来的に欲しいとした回答者(1,344名)にも聞いたところ、最も多かったのは「子育てにかかる金銭的負担」67.2%、次いで「子育ての方法やしつけ」63.4%、「仕事との両立」53.4%、「子どもの成長・発達」49.0%、「親同士の交流」39.9%が続きました。

子どもがいる層と比較をすると、ほとんどの項目で子どもはいるが将来的に欲しい層の方が高くなり、子どもや子育てに関して必要以上に不安を抱えている様子が窺えました。特にその傾向がみられたのは、「仕事との両立」(子どもがいる層 27.2%・子どもを将来的に欲しい層 53.4%)と「親同士の交流」(子どもがいる層 20.9%・子どもを将来的に欲しい層 39.9%)でした。

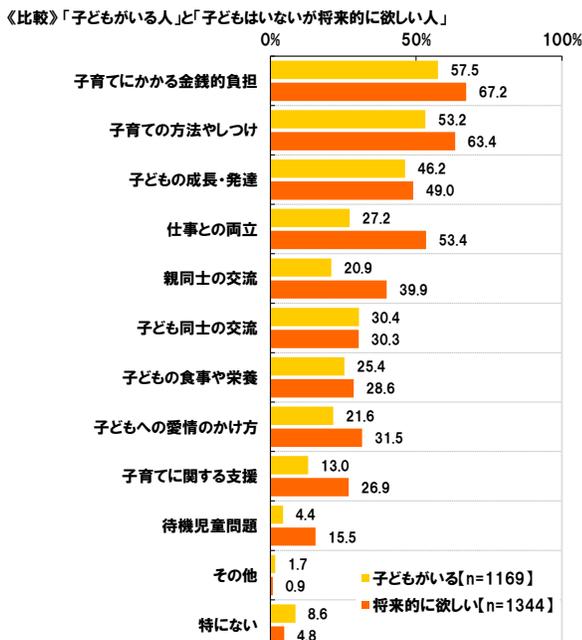
◆子ども・子育てに対する不安・悩み（複数回答形式）
 ※子どもがいる人の結果を表示



◆子ども・子育てに対する不安・悩み（複数回答形式）
 ※子どもはいるが将来的に欲しい人の結果を表示



◆子ども・子育てに対する不安・悩み（複数回答形式）

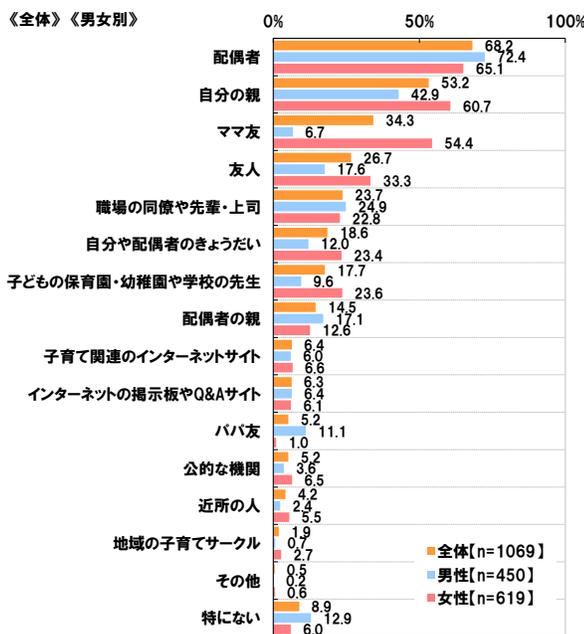


それでは、子育て中の不安や悩みは誰に相談しているのでしょうか。子ども・子育てに対する不安・悩みがあるとした回答者(1,069名)に聞いたところ、最も多かったのは「配偶者」68.2%、次いで「自分の親」53.2%、「ママ友」34.3%、「友人」26.7%、「職場の同僚や先輩・上司」23.7%が続きました。

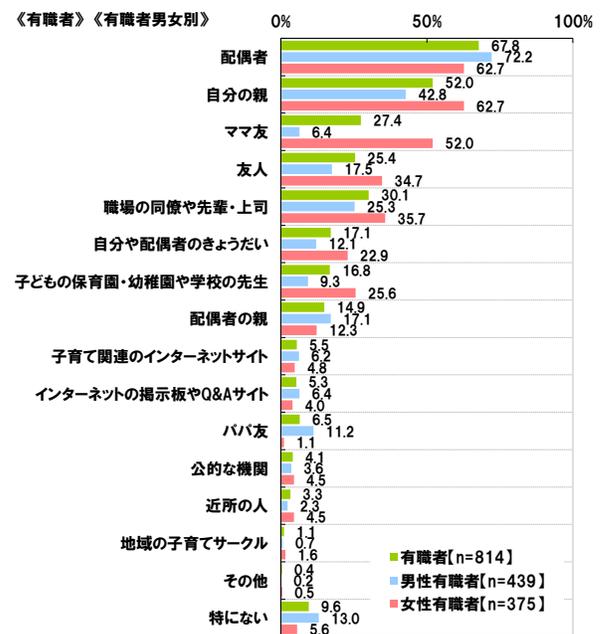
「ママ友」「パパ友」と「友人」について男女別にみると、女性では「ママ友」は54.4%、「友人」は33.3%とママ友を相談相手にしている割合の方が高くなりましたが、男性では「パパ友」は11.1%、「友人」は17.6%と友人を相談相手にしている割合の方が高くなりました。

さらに、有職者に限ってみると、「職場の同僚や先輩・上司」は男性有職者では25.3%と4人に1人の割合、女性有職者では35.7%と3人に1人の割合となりました。

◆子育てについて不安や悩みを相談する相手（複数回答形式）
 対象：子どもがいて、子育てに関する不安や悩みがある人



◆子育てについて不安や悩みを相談する相手（複数回答形式）
 対象：子どもがいて、子育てに関する不安や悩みがある人

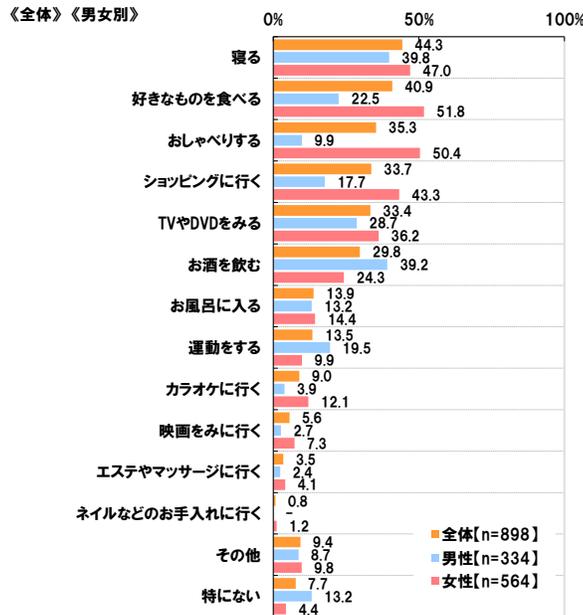


また、子育てをしていてたまったストレスをどのように解消しているのでしょうか。ストレスを感じることもあるとした回答者(898名)に聞いたところ、最も多かったのは「寝る」44.3%、次いで「好きなものを食べる」40.9%、「おしゃべりする」35.3%、「ショッピングに行く」33.7%、「TVやDVDをみる」33.4%、「お酒を飲む」29.8%が続きました。

これらを男女別にみると、「好きなものを食べる」(男性22.5%・女性51.8%)、「おしゃべりする」(男性9.9%・女性50.4%)では男性に比べ女性で大幅に高くなり、女性の1位、2位項目となりました。また、「ショッピングに行く」(男性17.7%・女性43.3%)でも女性が男性に比べ大幅に高くなりました。

他方、男性の方が高くなった項目をみると、「お酒を飲む」(男性39.2%・女性24.3%)と「運動する」(男性19.5%・女性9.9%)でした。

◆子育てをされていてたまったストレスの解消法（複数回答形式）
 対象：子育てをされていてストレスを感じることもある人



《子育てに対する意識について/子どもに体験して欲しいこと》

- ◆“子育ては社会全体でするものだと思う”約 4 人に 1 人
- ◆“子育ては楽しい”4 割半、“辛い”2 割
- ◆“子育ては経済的には楽である”1 割弱、“経済的には苦しい”7 割
- ◆“日本は子育て支援の環境が整っていないと思う”6 割弱、“環境が整っていると思う”1 割強
- ◆子どもにこれから体験して欲しい「職業体験」7 割

全回答者(3,000 名)に、子育てに関する意識について、対になるような項目を提示しどちらが考えに近いか聞ききました。

(1)【子育ては各家庭がするものだと思う】と【子育ては社会全体でするものだと思う】

半数以上(52.2%)が【子育ては各家庭がするものだと思う】に『近い』(「非常に近い」と「やや近い」の合計)としました。

【子育ては社会全体でするものだと思う】に『近い』とする割合は、24.6%と約 4 人に 1 人の割合でしたが、子どもがいる層(1,169 名)と子どもがいない層(1,831 名)に分けてみると、子どもがいる層の 18.7%に対し、子どもがいない層では 28.4%と子どもがいない層の方が高くなりました。

また、【子育ては社会全体でするものだと思う】に『近い』とする割合を年代別にみると、若い世代の方が高く、20 代では 28.2%、30 代では 27.9%でしたが、40 代では 17.7%と 2 割を下回りました。

(2)【子育ては辛い(と思う)】と【子育ては楽しい(と思う)】

【子育ては楽しい(と思う)】に『近い』とする割合(46.0%)の方が、【子育ては辛い(と思う)】に『近い』とする割合(20.7%)より高くなりました。

この傾向は子どもがいる層の方が強く、子どもがいない層では【子育ては辛い(と思う)】に『近い』は 24.7%、【子育ては楽しい(と思う)】に『近い』は 37.9%でしたが、子どもがいる層(1,169 名)では【子育ては辛い(と思う)】に『近い』は 14.4%、【子育ては楽しい(と思う)】に『近い』は 58.5%と半数以上でした。

(3)【子育てについて経済的には楽である(と思う)】と【子育てについて経済的には苦しい(と思う)】

【子育てについて経済的には苦しい(と思う)】に『近い』とする割合が 70.2%と大多数を占め、【子育てについて経済的には楽である(と思う)】に『近い』とする割合 8.5%を大きく上回りました。

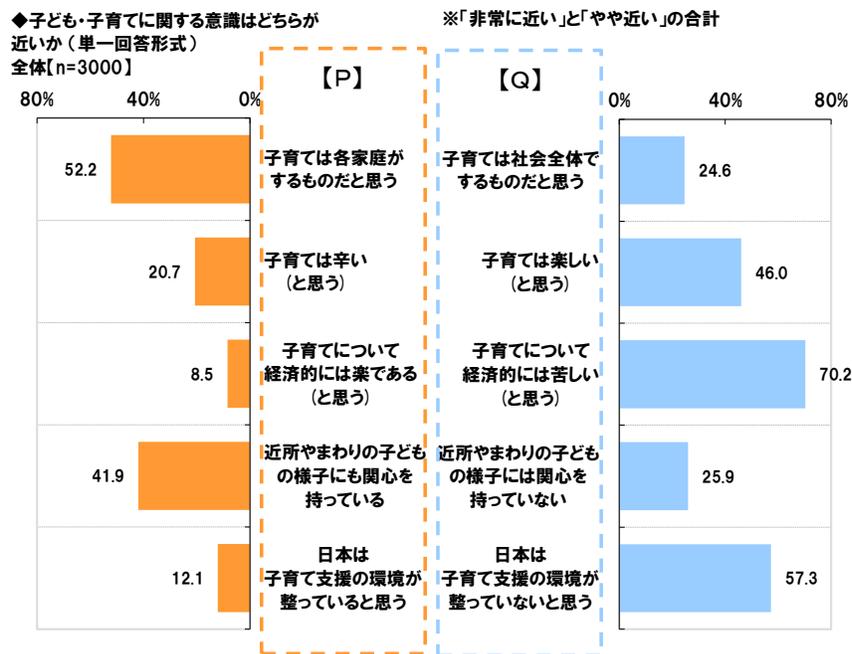
(4)【近所やまわりの子どもの様子にも関心を持っている】と【近所やまわりの子どもの様子には関心を持っていない】

【近所やまわりの子どもの様子にも関心を持っている】に『近い』とする割合(41.9%)の方が高くなりました。

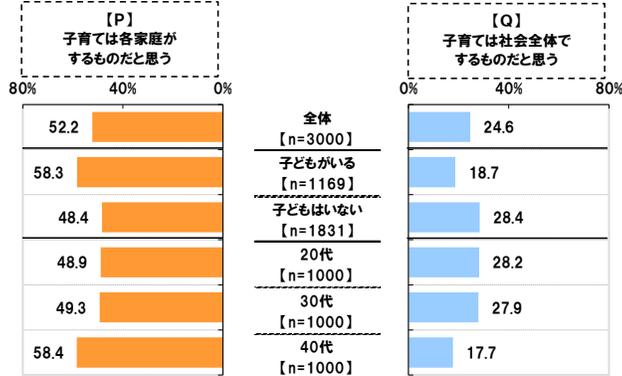
しかし、子どもがいない層についてみると、【近所やまわりの子どもの様子にも関心を持っている】に『近い』とする割合は 33.1%、【近所やまわりの子どもの様子には関心を持っていない】に『近い』とする割合は 33.6%とほぼ同率で、拮抗する結果となりました。

(5)【日本は子育て支援の環境が整っていると思う】と【日本は子育て支援の環境が整っていないと思う】

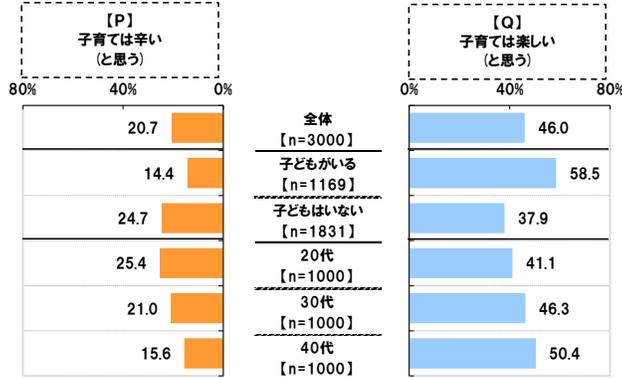
【日本は子育て支援の環境が整っていないと思う】に『近い』とする割合は 57.3%と半数以上で、【日本は子育て支援の環境が整っていると思う】に『近い』とする割合は 12.1%と 1 割強にとどまりました。



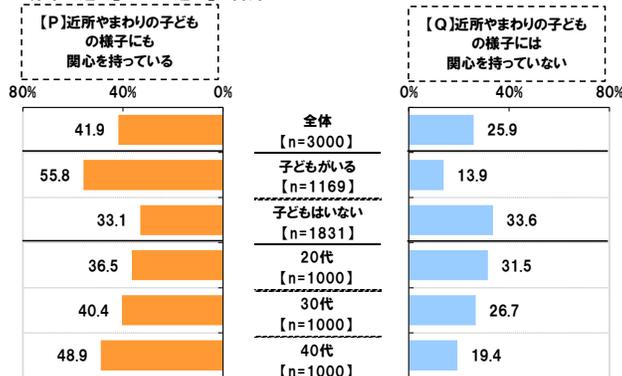
◆子ども・子育てに関する意識はどちらが近いか（単一回答形式）
 ※「非常に近い」と「やや近い」の合計



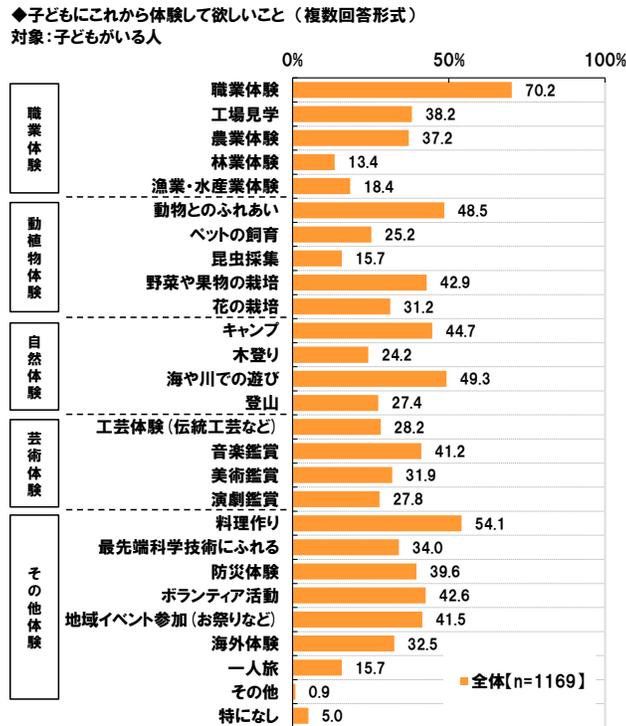
◆子ども・子育てに関する意識はどちらが近いか（単一回答形式）
 ※「非常に近い」と「やや近い」の合計



◆子ども・子育てに関する意識はどちらが近いか（単一回答形式）
 ※「非常に近い」と「やや近い」の合計



また、子どもがいる回答者(1,169名)に、子どもにどのようなことをこれから体験して欲しいか聞いたところ、「職業体験」70.2%が際立って高くなりました。それ以外にも「料理作り」54.1%は半数以上が体験して欲しいことに挙げ、「海や川での遊び」49.3%、「動物とのふれあい」48.5%、「キャンプ」44.7%、「野菜や果物の栽培」42.9%、「ボランティア活動」42.6%、「地域イベント参加(お祭りなど)」41.5%、「音楽鑑賞」41.2%は4割以上が挙げました。親が子どもに体験してほしいことは、職業体験、料理体験、自然体験、動物・植物体験、地域活動体験、芸術体験など多岐にわたっているようです。



《子育てで配偶者に望むこと/子育て支援について》

◆子育てで配偶者に望むこと 妻の半数近くが「子育てについて一緒に考えて欲しい」

夫の半数近くは「特になし」

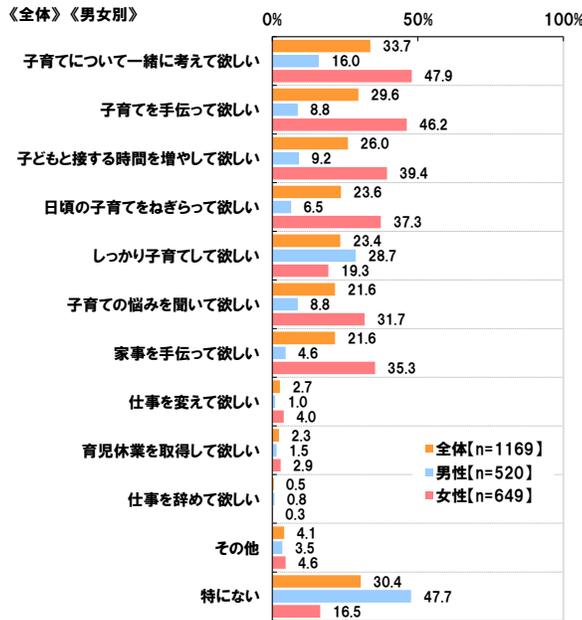
◆子育て支援を《行政》に求める7割弱、《職場》には4割強

◆必要な子育て支援/サポート 「子育て費用」7割強、「子どもの医療」5割強、「防犯体制」5割弱

女性では「子育てと仕事の両立」半数以上、「保育サービス」4割半

次に、子どもがいる回答者(1,169名)に、子育てに関して、配偶者に望むことを聞いたところ、男女(夫と妻)では大きく回答傾向が異なりました。男性(夫)についてみると、最も多かったのは「特になし」47.7%で半数近くが配偶者(妻)に望むことはないとなりました。要望として最も多く挙げたのは「しっかり子育てして欲しい」28.7%でした。一方、女性(妻)で最も多く挙げたのは「子育てについて一緒に考えて欲しい」47.9%、僅差で「子育てを手伝って欲しい」46.2%が続く、以下「子どもと接する時間を増やして欲しい」39.4%、「日頃の子育てをねぎらって欲しい」37.3%、「家事を手伝って欲しい」35.3%、「子育ての悩みを聞いて欲しい」31.7%が3割台で続きました。

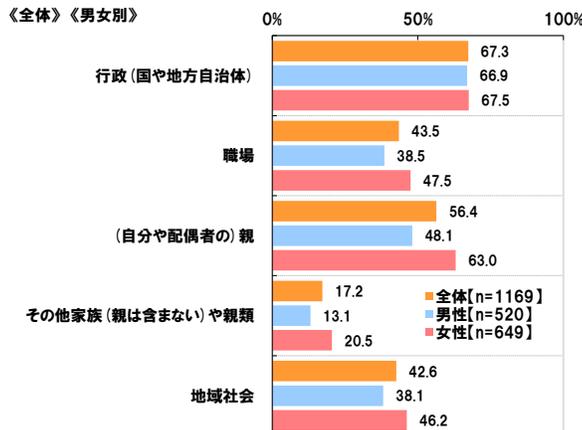
◆子育てに関して、配偶者に望むこと（複数回答形式）
 対象：子育てをしていてストレスを感じることがある人



さらに、子育てについての支援を《親》や《その他家族や親類》、《行政(国や地方自治体)》や《地域社会》、《職場》に対して、どの程度求めているか聞いたところ、『求めている』(「非常に求めている」と「やや求めている」の合計)は、《行政(国や地方自治体)》や《親》が比較的高くなり、《行政(国や地方自治体)》では67.3%、《親》では56.4%となりました。また、《地域社会》や《職場》に求めているとする割合も低くはなく、《地域社会》では42.6%、《職場》では43.5%となりました。

『求めている』とした割合を男女別にみると、《行政(国や地方自治体)》では男性66.9%、女性67.5%と差が見られませんが、《親》(男性48.1%・女性63.0%)や《地域社会》(男性38.1%・女性46.2%)、《職場》(男性38.5%・女性47.5%)では女性の方が高くなりました。

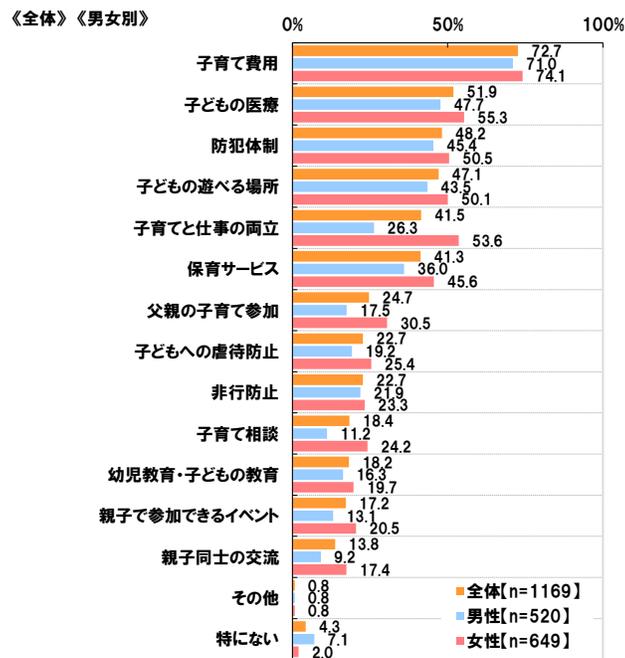
◆子育てについての支援を求めているか
 対象：子どもがいる人
 ※「非常に求めている」と「やや求めている」の合計



それでは、子育てについて何に対する支援やサポートが必要だと思われるのでしょうか。「子育て費用」72.7%が際立って高く、「子どもの医療」51.9%、「防犯体制」48.2%、「子どもの遊べる場所」47.1%、「子育てと仕事の両立」41.5%、「保育サービス」41.3%が続きました。

「子育てと仕事の両立」や「保育サービス」は、男女別にみると、「子育てと仕事の両立」は男性 26.3%に対し女性 53.6%、「保育サービス」は男性 36.0%に対し、女性 45.6%と女性の方が大幅に高く、女性が仕事を含めた自分の時間の確保に苦労している様子が窺えました。

◆子育てについて、必要だと思う支援・サポート（複数回答形式）
対象：子どもがいる人



《子育てと職場について》

◆職場が子育てをしながら働ける環境 『そう思わない』男性では3人に1人以上

◆子育てをしながら働ける環境ではない理由 「子育てが理由でも休暇・休業がとりづらい」7割弱

◆育児休業の取得経験は？

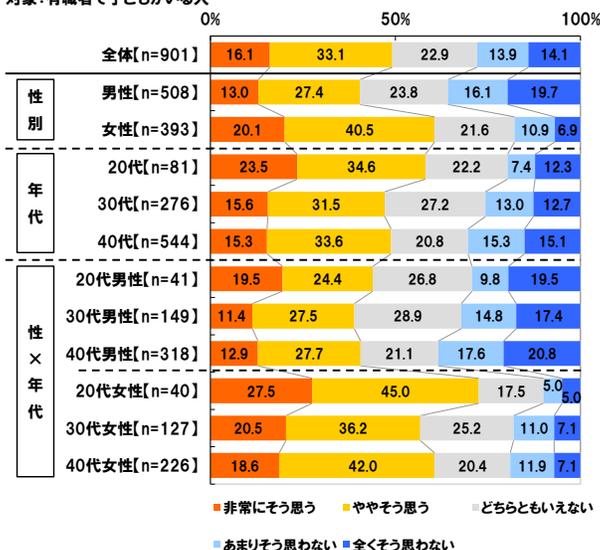
子どもがいて現在仕事をしている回答者(901名)に、自身の職場は子育てをしながら働ける環境にあると思うか聞いたところ、「非常にそう思う」16.1%、「ややそう思う」33.1%、「どちらともいえない」22.9%、「あまりそう思わない」13.9%、「全くそう思わない」14.1%となり、『そう思う』（「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計）は 49.2%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の合計）は 28.0%となりました。現在仕事と子育てを両立している人の 1/4 以上が大変な思いをしている様子が窺えました。

『そう思う』とした割合を男女別にみると、男性 40.4%に対し、女性 60.6%と女性の方が高くなりました。一方、『そう思わない』とした割合は、男性 35.8%に対し、女性 17.8%となり、自身の職場は子育てをしながら働ける環境に“ない”と思っている割合は、男性では3人に1人以上で女性の2倍となりました。

職場が子育てをしながら働ける環境にないとした回答者(252名)に、その理由を聞いたところ、最も多かったのは「子育てが理由でも休暇・休業がとりづらい」67.1%、次いで「子育てに関する勤務時間制度が整っていない」54.0%、「子育てに関する休暇・休業制度が整っていない」「子育てが理由でも遅刻や早退がしづらい」いずれも52.0%、「他の社員・職員に迷惑がかかるから」45.6%、「残業が多く、定時に退社できない」44.4%が続きました。職場の制度が整っていないことだけではなく、周囲の社員・職員に子育てへの理解が得られていないことも理由としては大きいようです。

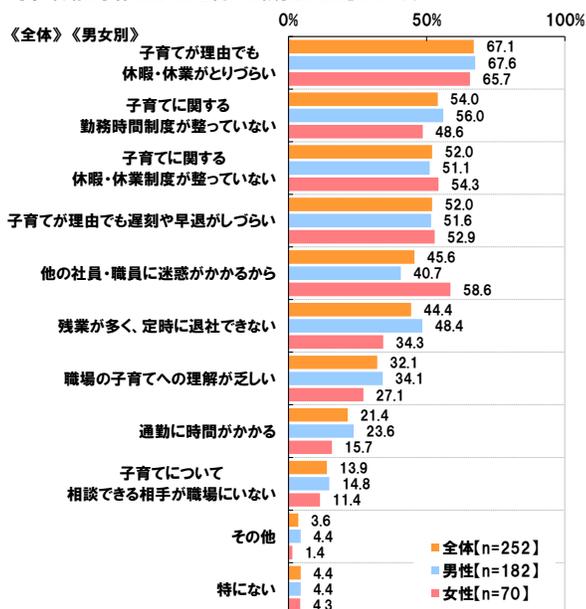
これらを男女別にみると、「他の社員・職員に迷惑がかかるから」は、男性40.7%に対し、女性58.6%と、女性の方が理由に挙げた割合は高くなり、「残業が多く、定時に退社できない」についてみると、男性48.4%に対し、女性34.3%となり、こちらは男性の方が理由に挙げた割合は高くなりました。

◆職場が子育てをしながら働ける環境にあると思うか、そう思わないか(単一回答形式)
対象:有職者で子どもがいる人



| そう思う(計) | そう思わない(計) |
|---------|-----------|
| 49.2 | 28.0 |
| 40.4 | 35.8 |
| 60.6 | 17.8 |
| 58.1 | 19.7 |
| 47.1 | 25.7 |
| 48.9 | 30.4 |
| 43.9 | 29.3 |
| 38.9 | 32.2 |
| 40.6 | 38.4 |
| 72.5 | 10.0 |
| 56.7 | 18.1 |
| 60.6 | 19.0 |

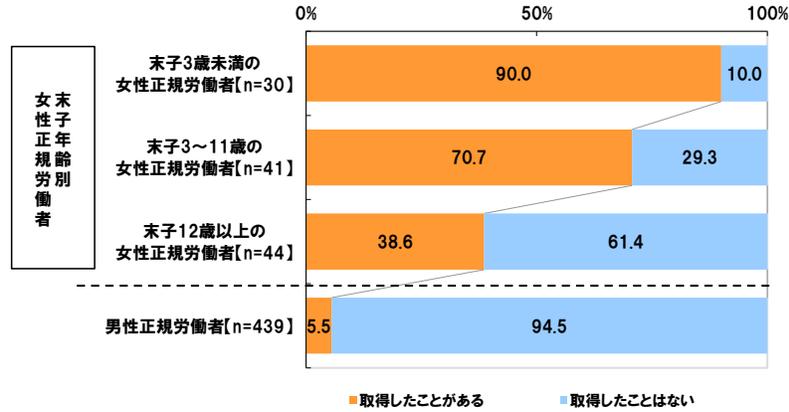
◆職場が子育てをしながら働ける環境にあると思わない理由(複数回答形式)
対象:職場が子育てをしながら働ける環境にあると思わない人



また、最近では、男性も育児休業を取得しやすくする環境づくりに取り組んでいる企業も出てきていたり、育児休業期間を3年に延長する子育て支援策も打ち出されたりしていますが、育児休業(育休)の取得について聞いたところ、正規労働者の「取得したことがある」割合をみると、女性正規労働者では、末子3歳未満の層(30名)は90.0%、末子3歳~11歳の層(41名)は70.7%、末子12歳以上の層(44名)は38.6%となりました。一方、男性正規労働者についてもみると、「取得したことがある」割合は5.5%となりました。

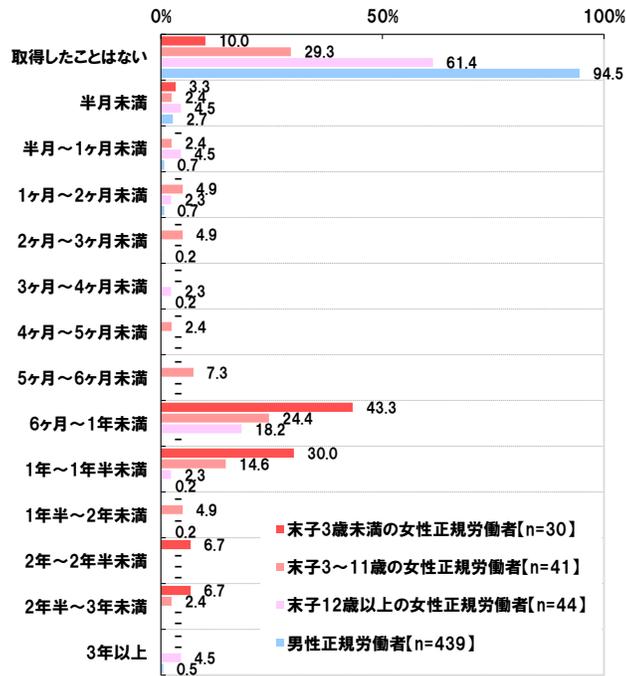
そして、取得した期間についてみると、女性正規労働者では、「6ヶ月~1年未満」と「1年~1年半未満」に回答が集まり、「6ヶ月~1年未満」は末子3歳未満の層では43.3%、末子3歳~11歳の層では24.4%、末子12歳以上の層では18.2%となり、「1年~1年半未満」は末子3歳未満の層では30.0%、末子3歳~11歳の層では14.6%、末子12歳以上の層では2.3%となりました。

◆育児休業を取得したことがある割合



◆取得した育児休業の期間（単一回答形式）

※：正規労働者の回答結果を表示



《まとめ》

今回の調査では、まず、未婚者に対し結婚意識について聞きました。

その結果、結婚意欲のない人や、その意欲があってもできないと思っている人の割合が少なくないことがわかりました。結婚意欲が湧かないのは、結婚に幸せを感じないことや面倒に感じること、自分の自由が減ること、経済的な不安や家庭を築くことへの不安が理由となっており、結婚できないと思うのは、結婚前の恋愛ができないことや、恋愛が上手くいかないことが理由として多く挙げられ、特に、20代では「異性と上手くつきあえない」を結婚できないと思う理由として挙げた割合が6割に達しました。また、非正規が正規に比べ、自身の結婚の可能性に悲観的であるとの結果が表れました。

次に、子どもを持つことに対する意識を聞いたところ、子どもがいる人、いない人を合わせた全体の理想の子供の人数は「2人」が最多となりました。しかし、現在、子どもがいない人の4分の1は「子どもは欲しくない」としており、男性では金銭的な余裕を持っていないこと、女性では子育てへの自信が持てないことや出産に対する恐怖が、その理由として多く挙げられました。

そして、子どもがいる人に対し、子育てについて聞いたところ、その結果からは、男性(夫)が子育てに費やしている時間(平均は週16.8時間)は女性(同53.0時間)に比べて少なく、子育ては女性(妻)が主に担っている様子が窺えました。男性の子育て時間が女性に比べ少なくなっていることには、残業時間など仕事の影響している可能性が窺えました。また、身近なサポートとして、子育てに関して配偶者に望むことを聞いた結果、妻が夫に求めることでは「子育てについて一緒に考えて欲しい」や「子育てを手伝って欲しい」が多く挙げられ、妻の“夫に子育てにもっと参加して欲しい”との思いが窺い知れました。

さらに、子育て中のストレスや不安・悩み、サポート・支援に関する質問の結果からは、子育て中の人の多くがストレスや不安・悩みを抱えていることが明らかになり、不安・悩みのトップは「子育てにかかる金銭的負担」、必要だと思うサポート・支援のトップは「子育て費用」となり、どちらも金銭的なことがトップになりました。女性に限ってみると、必要だとしているサポート・支援の上位には「子育てと仕事の両立」や「保育サービス」との回答もみられました。

連合は「働くことを軸とする安心社会」を提唱しており、その中には、労働時間を短縮し、仕事と家庭生活の両立を可能にする「ワーク・ライフ・バランス」や、「子ども・子育てを社会全体で支えること」が含まれています。

ワーク・ライフ・バランスを追求することによって、男性(夫)も育児参加しやすくなり、その結果、男性の子育て時間が増え、女性(妻)の子育て負担が軽減されることにつながるのではないのでしょうか。さらに、子ども・子育てを社会全体で支えるような社会の実現も、費用面を含めた各家庭の子育て負担の軽減につながるのではないか。

また、結婚や出産は当事者の選択であり、国や行政が介入すべきことではありませんが、望む人のために子育てしやすい環境を整備することは大切なことです。本調査の結果では、子どものいない人の子どもを欲しくない理由のトップは、子育てをする自信がないことでした。一方、子どものいる人では、6割近くが子育てを楽しんでいることが明らかになりました。しかし、仕事と子育ての両立に悩んでいる人も1/4以上いました。子育てをしている人が大変な思いをしている姿ばかり目にしているのは、子どもがいない人の子育てに対する不安が大きくなるばかりです。女性の子育て負担が軽減されていくことや、男性が育児に参加している姿を目にすれば、子どもがいない人の子育てへの不安を小さくすることができ、子どもを持つ意欲の高まりにつながるかもしれません。

連合は、これからも「働くことを軸とする安心社会」の実現に取り組んでいきます。

◆調査概要◆

- ◆調査タイトル：子ども・子育てに関する調査
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモバイルモニター会員を母集団とする20歳～49歳の男女
- ◆調査期間：2013年4月26日～2013年5月2日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：3,000サンプル（有効回答から3,000サンプルを抽出）
- ◆実施機関：ネットエイジア株式会社(担当:吉田)

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、「連合調べ」と付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

連合(日本労働組合総連合会)

総合政策局 生活福祉局 担当:照沼
TEL :03-5295-0523
Eメール :jtuc-seikatsu@sv.rengo-net.or.jp

総合企画局 企画局 担当:加藤
TEL :03-5295-0510
Eメール :jtuc-kikaku@sv.rengo-net.or.jp

受付時間 :10時00分～17時30分(月～金)

■■連合(日本労働組合総連合会) 概要■■

組織名 :連合(日本労働組合総連合会)
代表者名 :会長 古賀 伸明
発足 :1989年11月
所在地 :東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館
業務内容 :すべての働く人たちのために、希望と安心の社会をつくる